

15

HIV 感染症/エイズ診療における障がい者福祉制度適用の現状把握と改善 一血友病薬害被害者および HIV 陽性者の長期療養生活を支援する MSW の 支援体制に関する研究～啓発研修および薬害被害者支援体制の検討～

研究分担者 葛田 衣重

千葉大学医学部附属病院 技術系職員

研究要旨

血友病薬害被害者（以下被害者とする）および HIV 陽性者の長期治療生活を支援するため、ブロック拠点病院 MSW が中心となり、東海および近畿ブロックで（公社）日本医療社会福祉協会と共催して啓発研修を実施した。参加者は合計 73 名、いずれの会場も女性が半数以上を占め、年代は 30-40 代で 6 割、職種は MSW、PSW、社会福祉士で 8 割、所属は病院がほぼ 100% であった。参加者の多くから満足と高い評価を得、地域の実態を共有し支援の課題を検討する研修の有効性が認められた。ブロック毎に課題を取り上げ、当事者の地域生活を支える多様な専門職団体と共催した啓発研修の継続が求められる。

被害者支援活動をサポートする環境整備の一環として「薬害被害者支援 事務連絡 内規」、被害者が利用できる「社会資源チェックシート」を作成した。内規は、支援担当学会会議のゆるやかな指針として位置づけた。チェックシートは、被害者支援の乏しい担当者が被害者とともに利用している制度・社会資源を確認する簡便な書式とした。被害者および HIV 陽性者の地域生活支援を中心になって主導するブロック拠点病院等支援者を支援するネットワーク会議の存在は重要である。

A. 研究目的

被害者および HIV 陽性者には、長期にわたる治療の合併症、高齢化に伴う非 HIV 疾患や生活習慣病、要介護状態などがみられるようになってきた。そのため HIV 専門医療に加え、診断に沿った医療、生活支援が必要となり、拠点病院は地域での医療と生活を支える専門職や専門機関との連携を強化している。また全国の被害者および HIV 陽性者の居住分布には大きな偏りがあり、かつ地域の社会資源、地域文化や価値観は多様であり、それぞれの生活実態とそれに基づく医療や生活ニーズを把握したうえで支援する必要がある。

- (1) 地域の実態と課題を把握しているブロック拠点病院 MSW が中心となり啓発研修を企画運営する。研修参加者の意見からプログラムの妥当性を検討し、支援の質向上を図る。
- (2) 被害者の適切な支援のために、被害者支援活動をサポートする環境を整備する。

B. 研究方法

(1) ブロック単位での啓発研修

人権擁護を切り口とし、被害者および HIV 陽性者の生活支援の実際と課題の共有、課題の検討を目的に、地域生活を支える専門職を対象とし全国 2 カ所（東海および近畿ブロック）で実施した。研修プログラムはそれぞれのブロック拠点病院 MSW が中心となり作成した。内容は講義（人権擁護と HIV 陽性者支援、最新の医療知識、社会資源、被害者から支援者へのメッセージなど）と演習で構成し、演習は全国ブロック拠点病院等の MSW をファシリテータに配置し、支援の質向上についてグループワークを実施した。研修後、参加者にアンケート紙を配布し、感想や学び、今後の行動宣言などを記載させた。研修は公益社団法人日本医療社会福祉協会（MSW の職能団体、会員数約 5,500 人）と共催し、案内および参加者募集はブロック拠点病院のネットワークと日本医療社会福祉協会のネットワーク

を利用した。さらに同協会の認定医療社会福祉士の認定ポイントが付与される研修に位置づけた。

- 東海ブロック：2019/10/6（日）9：00～16：00
国立病院機構名古屋医療センター 講堂
テーマ 支援力を高め、明日につなごう！HIV陽性者の「当たり前」の暮らしが守れる社会へ
- 近畿ブロック：2019/10/26（土）9：30～17：00
国立病院機構大阪医療センター 緊急災害医療棟研修室
2019年度 近畿ブロックHIV/AIDSソーシャルワーカー研修
テーマ 地域で暮らすHIV陽性者の療養生活を支える～医療ソーシャルワーカーにできること～

(2) 支援担当者の活動をサポートする環境整備の検討
ブロック拠点病院等ソーシャルワーカーによる会議にて、外来看護師やその他専門職と支援活動しやすい環境やツールを検討した。

(倫理面への配慮)

研修の講義や演習で用いた事例は、作成者により架空のものとするか、実際の事例の場合は個人が特定されないよう加工し、本人に使用の了解を得たものとした。研修テキストへの掲載は、作成者の判断とした。

C. 結果

(1) ブロック単位での啓発研修

① 参加者の属性

両会場ともに、参加者の性別は女性が多く、年代は30代と40代で6割、職種はMSW・PSW・社会福祉士で8割だった。所属は拠点病院を含む病院がほぼ100%を占めた(表1)。参加者の支援経験の有無

は、両会場とも経験なしが経験ありを上回った。これまでのHIV研修受講歴は、受講なしが受講ありを上回り、支援経験がなくHIV研修を受けたことがない人に研修を提供する機会となった(表2)。参加者の勤務地は、東海会場ではブロック内が95%、近畿会場は64%と違いがみられた。これは東海ブロックでは、研修4ヶ月前にブロック内中核拠点病院MSWからコアメンバーを選出し本研修の企画運営をしたため、早期から各中核から地域への周知と働きかけがあったこと、さらに愛知県医療ソーシャルワーカー協会の共催を得て同協会MSWに情報提供がなされたためと考えられた。大阪会場には、ブロック外から36%の参加があり、勤務地は関東、東海、北陸、中四国、九州(沖縄県含む)が見られた。交通の便の良さ、日曜日開催などの要素が影響していると思われた(表3)。

② 研修プログラムの妥当性

両会場ともHIV陽性者支援の経験が乏しいMSW向けのプログラムであり、当事者のメッセージは友友病薬害被害者が講師であった。受講後アンケートの意見や感想として、両会場ともに「満足、ほぼ満足」が8割以上を占めた。東海会場では「正しい知識を持つことの大切さ」「支援者自身の偏見や思い込みに向き合うこと」などがみられ、人権擁護の視点から支援者としての在り方を考える契機となったことが示唆された。大阪会場でも「最前線の正しい知識を得ることができた」「偏見に対し、社会正義や個人の尊厳というソーシャルワーカーの使命に立ち返ることが重要」、また「まず動いてみよう」「同じ法人内の施設事業所への研修実施が今すぐができること」「地域で何ができるか考えたい」など学びから具体的に行動する意志やプランが挙がった。

表1 東海ブロック・近畿ブロックにおける参加者数、参加者の性別、年代、職種、所属

会場	参加者 (人)	性別 (%) 女性	年代(%)				職種(%)			所属(%)			
			20代	30代	40代	50代 以上	MSW/PSW /社会福祉士	NS	CM	拠点	一般	居宅	施設
東海	40	80	25	34	30	11	86	10	4	48	50	2	0
近畿	33	62	27	27	33	9	82	6	3	33	61	0	0

表2 参加者の支援経験と研修受講の有無

会場	支援経験(%)		研修受講(%)	
	あり	なし	あり	なし
東海	41	57	35	60
近畿	34	63	-	-

表3 参加者の勤務地

会場	ブロック内(%)	ブロック外(%)
東海	95	5
近畿	64	36

プログラムは、前半に知識（医療、社会資源、当事者メッセージ）、後半にパネルディスカッション、グループワークで構成し、各自が学習したことをグループワークで自身に引きつけて考え、明日から何をするか、という行動を考える組み立てとした。拠点病院MSWがミクロの実践経験と、ブロック研修や会議を経て実感している地域性や地域の支援の課題を踏まえて作成しており、参加者の多くから高い評価と満足を得ていた。当事者である被害者や陽性者の講義は、いずれの会場でも貴重な機会として捉えられており、被害者理解を深めるために不可欠な要素と考えられた。グループワークは、日頃のネットワーク強化にも寄与した。東海会場では、昼休みに感染症科外来見学をオプションとして実施し、診察室内部を見学する機会が得にくい地域支援者が患者の受診環境を理解する好機となった。公益社団法人日本医療社会福祉協会、都道府県医療ソーシャルワーカー協会との共催は、全国の非拠点病院等のMSWやその他専門職に被害者やHIV陽性者の実態を理解し生活課題を検討する研修を提供する機会となった。

表4

被害被害者支援 連絡事項 内規	
令和元年5月1日 厚生労働行政推進調査事業費補助金 エイズ対策政策研究事業 「HIV感染症の医療体制整備に関する研究」班	
1. 本会議の目的	・被害被害者が安心して療養できる環境整備にむけた、医療と介護・福祉の支援担当者によるネットワーク作り
2. 議題	・被害エイズと HIV 医療体制整備について ・被害被害者の支援経験および課題 ・被害被害者が利用できる社会資源 ・支援担当者連絡網や相互連携体制の構築 ・その他、被害被害者支援に必要なこと
3. メンバー	・看護師とソーシャルワーカー ・HIV 担当が望ましい ・その他、開催目的に合わせメンバーを拡大することが出来る。
4. 会議の開催	・各ブロックが必要に応じ開催する。 ・メンバーより臨時開催の希望がある場合は検討する。

(2) 支援担当者の活動をサポートする環境整備

①「被害被害者支援 事務連絡 内規」を本研究班の通知として作成した（表4）。

全国8ブロックでは、被害被害者支援に関わるMSWや外来看護師の会議や研修が通年事業に組み込まれている。それらの会議等の目的、議題、メンバーなどについてゆるやかな枠組みの指針となった。

表5

このチェックシートは、被害被害者の生活を支える公的制度などの利用状況を本人と確認するものです。制度利用の漏れ、または利用希望があれば、申請や利用に向け相談支援してください。収入については、現在の状況と、これからの療養生活の経済面を支える目安として確認してください。

社会資源チェックシート

ID _____ 氏名 _____ 年 月 日（記録者 _____）

1. 医療費助成制度

主保険（国保・社保・共済・ / 本人・扶養）、生活保護

特定疾病療養（長期高額疾病）

先天性血液凝固因子障害等治療研究事業

2. 身体障害者手帳 なし あり（免疫機能障害 級 / 肢体不自由 級 / 級）

心身障害者医療費助成

自立支援医療（更生医療） 月額上限額 _____ 円

3. 生活を支える資金 金額はいずれも2019/4/1現在

【手当】

健康管理支援事業（AIDS発症） 150,000円/月

調査研究事業（未発症） CD4≤200 52,800円/月、CD4>200 36,800円/月

先天性傷病C型肝炎調査研究謝金 51,500円/月

国 特別障害者手当 27,200円/月

市町村 心身障害者福祉手当

【年金】

障害年金（基礎年金 1級 975,125円 2級 780,100円）
厚生年金

【収入】

【和解金】

【生活保護費】

4. 生活支援

障害区分認定（未申請・1・2・3・4・5・6）

介護保険 要支援（1・2） 要介護（1・2・3・4・5）

利用している生活支援・福祉サービス
・
・

5. 自由記載（今後の課題など）

2019.8 医療体制整備班 分担研究

②「社会資源チェックシート」を作成した(表5)。

2018年度の薬害被害者支援担当者会議の経緯から、被害者自身も持ち帰ることができる簡便な「チェックシート」および被害者支援経験のないMSWや看護師が、適切に情報収集ができるような「面接の手引き」の開発が求められた。これを受けて、薬害被害者が利用できる公的制度等をまとめた「社会資源チェックシート」を作成し、ブロック拠点病院会議などで周知した。

③「意見交換会」の試行

2019年6月、厚生労働省より「医療機関のみならず血液凝固因子製剤に起因するHIV感染症患者に対する医療費の取扱いについて」が医療機関に届き、被害者に提供するように通知があった。薬害被害者手帳に続き、被害者に医療費負担をさせないことを明確にしたものである。これに伴い被害者が多く通院しているブロック拠点病院等MSWから、以前からもあった医療費負担について、特に「治療用器具の療養費払い」「医療機関登録」に課題が集中していると声が挙がった。加えてHIV陽性者の長期療養を支える支援体制にも課題が幾つかあり、厚生労働省担当者、当事者団体(はばたき福祉事業団)とブロック拠点等MSWの意見交換会を2020.1開催することとした。開催に先立ち、ブロック毎に自治体の対

応、実態について情報収集し事前資料として参加者に提供した。会では地域の支援実態を厚労省、当事者団体、ブロック相互と共有することができ、明確な結論には至らないものの厚労省内の検討の進捗などを確認することができた。ブロック拠点病院等ソーシャルワーカー会議メンバーは表6のとおり。

D. 考察

(1) 啓発研修の推進

- ① プログラムの作成：地域の実態と生活支援の課題を把握しているブロック拠点病院MSWが、地域支援体制を強固にする内容を作成できる。
- ② プログラムの内容：講義(人権擁護、HIV/AIDSの最新の動向、ブロックの陽性者・患者動態、医学知識、社会資源、被害者を含むHIV陽性者の語り・支援者へのメッセージ)と演習で構成する。演習にグループワークを取り入れることにより、地域支援者間のネットワーク構築・強化の機会ともなる。
- ③ 企画・運営：ブロック内中核拠点MSWをコアメンバーとすることが望ましい。いずれのブロックも広く、ブロック内全域から参加を得るのは地理的にも難しい。研修企画、実施運営、研修後のまとめなど一連の流れを中核拠点MSWが共

表6

No		地区	氏名	所属
1	全国	全国	ソルダノあかね	国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発センター ケア支援室/救済医療室
2	ブロック	北海道	富田 健一	北海道大学病院 HIV 診療支援センター
3		東北	油川 朝香	仙台医療センター 地域医療連携室
4		関東甲信越	野田 順子	新潟大学医歯学総合病院 感染管理室
5		北陸	青野 加奈子	石川県立中央病院 患者支援センター
6			鳥越 彩英子	
7		東海	浅海 里帆	名古屋医療センター 相談支援センター
8		近畿	岡本 学	大阪医療センター 医療福祉相談室
9		中国四国	村上 英子	広島大学病院 輸血部・エイズ医療対策室
10			大成 杏子	広島大学病院 エイズ医療対策室
11		九州	首藤 美奈子	九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター
12		中核	京都府	隈村 綾子
13	沖縄県		石郷岡 美穂	琉球大学医学部附属病院 医療福祉支援センター
14	一般	東京都	藤平 輝明*	東京医科大学病院 総合相談支援センター
15			小笠原 太	東京医療センター 医療福祉相談室

*副センター長

有し、相互支援できる体制がとれば、中核拠点病院が中核地域において主催することも可能となる。

- ④ 研修会場：拠点病院が望ましい。日頃診察室などを見学する機会が得にくい地域支援者が利用者（被害者およびHIV陽性者）の受診環境を理解する好機となる。さらにブロック拠点病院での開催は、首都圏に集中しがちな研修の地方開催となり、地方在住の支援者の参加ニーズを満たすものとなる。
- ⑤ 共催団体：利用者の生活を支援する専門職の理解と受入れ促進、課題の解決に直結する専門職や団体との共催や後援を得ることが有効である。今後は、高齢要介護者の地域生活を支援する介護支援専門員、入所施設長、就労支援では企業人事担当者・管理者、啓発や予防については学校などが候補と考えられる。専門職団体の認定ポイント付与の研修に位置付けることにより、参加者のモチベーションが高まる効果もある。

(2) 支援担当者の活動をサポートする環境の整備

① 「薬害被害者支援 事務連絡 内規」

ブロックが主催する支援担当者会議の大枠を定めることにより、会議の目的や質を担保することができる。

② 「社会資源チェックシート」

すでに何種類かのアセスメントシートが存在するなかで、被害者支援経験の乏しいMSWや看護師でも、被害者が利用できる公的制度等を漏れなく確認できるものとなった。さらに本チェックシートを用いて行う面接のガイドラインとなる「面接の手引き」の開発も求められている。

次年度以降も、薬害被害者支援担当者が活動しやすい環境を整備し、個別支援を充実させていく必要がある。

③ 意見交換会

被害者支援では、すでにACC救済室MSWとブロック拠点病院MSWのネットワークが構築されている。被害者の高齢化、親世代の要介護、逝去などにより発生する課題の複雑化・個別化が進展するなかで、支援の推進はこのネットワークとメンバーが中心となって担うことが妥当と考える。必要に応じて、国、被害者団体、支援担当者が顔を合わせて意見交換し、支援の方向性や枠組みを確認する機会は貴重である。

E. 結論

- (1) ブロック拠点MSWは、個別支援から得られた利用者（被害者とHIV陽性者）ニーズと、ブロック研修や担当者会議などから把握した支援者および地域のニーズを統合してタイムリーな研修内容を企画し、自院を研修会場として運営することが可能であり、その研修はブロックの課題の検討、参加者間のネットワーク構築に有効と考えられる。
- (2) 血友病薬害被害者の支援体制は、支援担当者が活動しやすい環境を整備することで進展する。経験豊かなブロック拠点病院支援担当者が、被害者支援経験の乏しい地域支援者をサポートしやすい仕組みづくりが必要である。
- (3) 被害者およびHIV陽性者への支援において中心的に活動するブロック拠点病院等MSWのネットワーク会議の存在は、情報共有や検討の機会を保障するだけでなく支援者支援の点からも重要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

参考資料

- 1) 2019年度 人権擁護とソーシャルワーク研修【愛知会場】2019.10.6 支援力を高め、明日につなごう HIV陽性者の「当たり前」の暮らしが守れる社会へ （一社）愛知県医療ソーシャ

ルワーカー協会（公社）日本医療社会福祉協会
共催

- 2) 2019年度 人権擁護とソーシャルワーク研修
【大阪会場】2019.10.26 地域で暮らす HIV 陽性者の療養生活を支える ～医療ソーシャルワーカーにできること～ 2019年度 近畿ブロック HIV/AIDS ソーシャルワーカー研修 近畿

ブロック拠点病院大阪医療センター（公社）日本医療社会福祉協会 共催

- 3) 話し合いながら進める医療をめざして～薬害 HIV感染血友病等患者の医療と福祉・介護の連携や支援に関する事例集～ 2018年3月 非加熱血液凝固因子製剤による HIV感染血友病等患者の長期療養体制の構築に関する患者参加型研究

参考資料 2019人権擁護とSW研修チラシ（日本医療社会福祉協会版）

SW HS 2019年度 「人権擁護とソーシャルワーク」研修
（近畿ブロック拠点病院名古屋医療センター、HIV感染症の医療体制の整備に関する研究）

本研修は、医療ソーシャルワーカーやその他の専門職が「人権擁護」の視点から対象者を取り巻く社会現象を理解し、参加者それぞれ立場における支援を考えるものです。
今年度も HIV 陽性者を取り上げ、実践において日頃抱えている不安や疑問を共有し、学び合いにより質の高い支援を考えることを目的とします。
今年度の名古屋会場では、HIV 感染症/HIV/AIDS 医療体制の変遷と、地域が抱える HIV 陽性者支援に関する課題や問題について改めて理解を深め、顔の見える連携の輪のもと、参加者が主体的に明日からの支援に関われることを目指します。大阪会場では、血友病/HIV/AIDS についての基礎知識修得に始まり、HIV 陽性者支援に携わった経験のあるソーシャルワーカーからコメントをもらいながら実践において日頃抱えている不安や疑問を共有し、地域で共に生きる HIV 陽性者を支えるための質の高い支援について考え、連携を図りたいと思います。

両研修とも認定ポイント付与、参加費は無料です。皆様のご参加を心からお待ちしております。

開 催 場 所	愛知会場	大阪会場
テ ー マ	「支援力を高め、明日につながる！ HIV陽性者の「当たり前」の暮らしが守れる社会へ」	「地域で暮らすHIV陽性者の療養生活を支える～医療ソーシャルワーカーにできること～」
日 時	2019年10月6日（日）9：30～16：00	2019年10月26日（土）10：00～17：00
会 場	国立病院機構名古屋医療センター （愛知県名古屋市中区三の丸4丁目1番1号）	国立病院機構大阪医療センター 緊急災害医療棟研修室 （大阪府大阪市中央区法円坂2-1-14）
対 象	ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、看護師 等医療職、福祉介護教育従事者等	ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、看護師 等医療職、福祉介護教育従事者等
定 員	50名	60名
費 用 期 間	2019年7月1日（月）～8月30日（金）	2019年7月1日（月）～8月30日（金）
プログラム （予 定）	1. HIV感染症の基礎知識 2. HIV感染症看護と感染対策 3. 当事者から支援者へのメッセージ 4. HIV陽性者支援と人権擁護 5. グループワーク等	1. 血友病/HIV/AIDSの基礎知識 2. HIV陽性者を支える社会資源 3. 当事者から支援者へのメッセージ 4. HIV陽性者の療養支援と地域連携 5. グループワーク等

研修の申込方法 研修ホームページの研修情報の研修案内または本研修スケジュールの受講申込書フォームに必要事項を記入の上、お申し込みください。

お問い合わせ
公社社団法人日本医療社会福祉協会 事務局
〒152-0005 東京都港区浜松町8-30 四谷デンビル2F
TEL：03-5366-1057 FAX：03-5366-1058
E-mail: jssw@jssw.or.jp
URL: http://www.jssw.or.jp/

参考資料 プログラム【愛知会場】

2019年度 人権擁護とソーシャルワーク研修【愛知会場】
共催：東海ブロック拠点病院名古屋医療センター、HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究班
日本医療社会福祉協会、愛知県医療ソーシャルワーカー協会

『支援力を高め、明日につながる！
HIV 陽性者の「当たり前」の暮らしが守れる社会へ』
プログラム

会場：名古屋医療センター 講堂（外来管理診療棟5階） 愛知県名古屋市中区三の丸4-1-1

時 間	内 容
10/6（日）9:00	開場 受付開始
9:30～9:35	開会あいさつ オリエンテーション
1 9:35～9:50	【講義1】「HIV 感染症の医療体制の整備について」 名古屋医療センター 感染症内科 医師 横橋 能行 氏
2 9:50～10:30	【講義2】「HIV 感染症の基礎知識」 名古屋医療センター 感染症内科 医師 今橋 真弓 氏
3 10:30～11:10	【講義3】「HIV 感染症看護と感染対策」 神戸医療センター 看護師 安尾 有加 氏
4 11:10～11:50	【講義4】「当事者からの声」 社会福祉法人はばたき福祉事業団 武田 飛呂城 氏
11:50～12:50	昼食（各自でお取りください） *希望者には感染症内科外来の見学を予定
5 12:50～14:05	【講義5】「HIV陽性者への支援と人権擁護」 東京医科大学病院 MSW 藤平 輝明 氏
6 14:05～15:45	【演習】グループワーク 進行 千葉大学医学部附属病院 MSW 梶田 衣重 氏
7 15:45～16:00	まとめ アンケート記入

<お願い>
プログラム内容・時間は、講義の進行の都合で変更する場合がございますのでご了承ください。

参考資料 プログラム【大阪会場】

2019年度 近畿ブロック HIV/AIDS ソーシャルワーカー研修
2019年度 人権擁護とソーシャルワーク研修
共催：近畿ブロック拠点病院大阪医療センター、HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究班、
公社社団法人日本医療社会福祉協会

『地域で暮らす HIV 陽性者の療養生活を支える
～医療ソーシャルワーカーにできること～』
プログラム

会場：国立病院機構大阪医療センター緊急災害医療棟研修室 大阪市中央区法円坂2-1-14

時 間	内 容
10/26（土）9：30	開場 受付開始
10：00～10：05	オリエンテーション
1 10：05～11：05	【講義1】「血友病/HIV/AIDSの基礎知識」 大阪医療センターHIV/AIDS 先端医療開発センター 医師 廣田 和之 氏
2 11：05～12：05	【講義2】「HIV 陽性者を支える社会資源」 大阪医療センター MSW 岡本 学 氏
12：05～13：15	昼食（各自でお取りください）
3 13：15～13：45	【講義3】「薬害エイズを語る」 大阪HIV薬害訴訟原告団 理事 森戸 克則 氏
4 13：45～14：50	【パネルディスカッション】 「HIV 陽性者の療養支援と地域連携」 <パネリスト> 堺平成病院 地域連携室係長 青野 沙典 氏 千里中央病院 地域医療連携室課長代理 渡邊 成吾 氏 近畿大学病院 MSW 新城 美香子 氏
14：50～15：05	休憩
5 15：05～17：00	【演習】グループディスカッション

<お願い>
プログラム内容・時間は、講義の進行の都合で変更する場合がございますのでご了承ください。

- 4) 医療 情報収集シート 療養支援アセスメントシート 2018年3月 非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染血友病等患者の長期療養体制の構築に関する患者参加型研究
- 5) 福祉・介護 情報収集シート 2018年3月 非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染血友病等患者の長期療養体制の構築に関する患者参加型研究
- 6) 療養先検討シート 2018年1月改定 非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染血友病等患者の長期療養体制の構築に関する患者参加型研究